日本海沿岸東北自動車道 大館北～小坂（新直轄方式）

環境 情報 コミュニケーション

※新直轄方式とは・・・。

従来、高速道路の整備・管理においては、料金収入を財源として整備を進めてまいりました。

道路公団の民営化後、整備・管理が難しいとされる区間における補完措置として、国と地方の負担（国:地方=3:1）により高速道路を整備する新たな整備手法が生まれ、これを「新直轄方式」としています。

事業概要

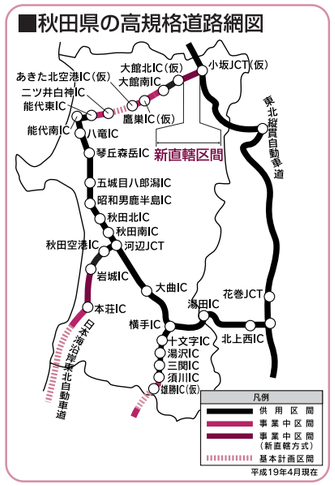
日本海沿岸東北自動車道の一部を形成する大館北～小坂間は延長14kmの区間で、平成15年12月25日の第1回国土開発幹線自動車道建設会議（国幹会議）において新直轄方式として位置付けられ平成16年1月30日に整備計画の変更が行われています。

進捗状況

平成19年度は、用地買収・改良工事・橋梁工事の継続推進を図るとともに、雪沢（ゆきさわ）第一トンネル（L=2,553m）に着手します。

大館小坂間起点側

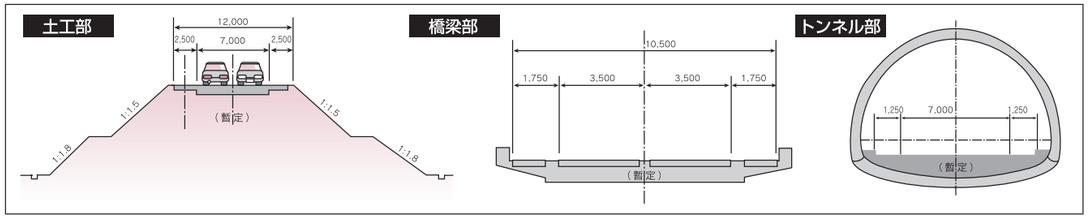
■秋田県の高規格道路網図



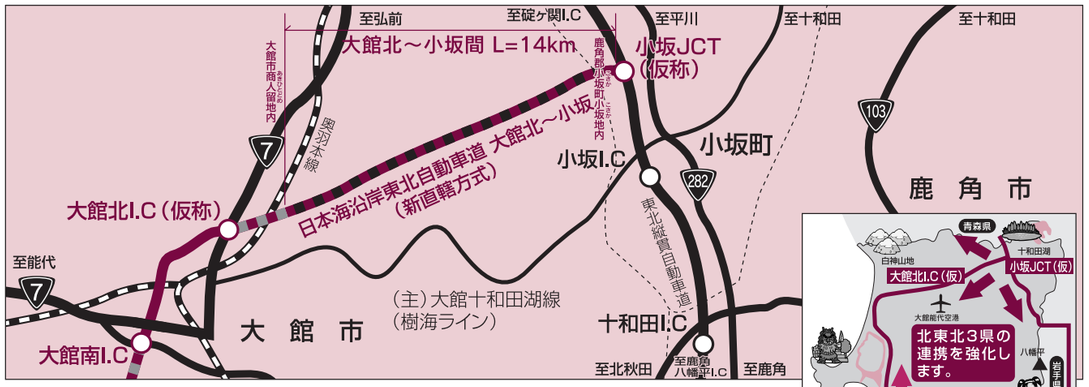
■計画諸元

起終点	起点 秋田県大館市商人留 終点 秋田県鹿角郡小坂町小坂		
延長	L=14km	設計速度	80km/h
幅員	W=12.0m	最小半径	R=800
構造規格	第1種第3級	最急縦断勾配	i=4.0%

■標準横断面図（単位:mm）



■事業箇所位置図



将来のすがた

1.地域連携が強化され、地域の活力が創造されます。

人々の活動・交流が盛んになり、地域間の連携が深まります。米代川流域地域の連携、県内各地域との連携、北東北3県の連携等が深まり、企業進出、観光周遊ルートの創出による観光客の増加等も期待できます。

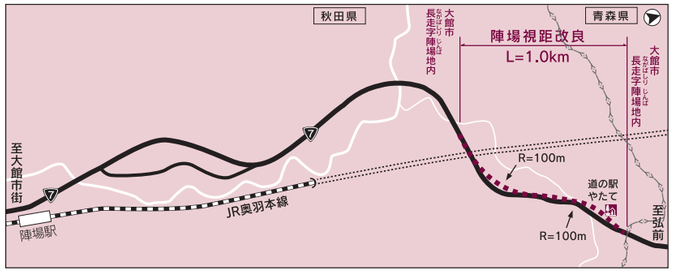
一般国道7号 陣場視距改良（冬期交通安全確保）

環境 情報 コミュニケーション

事業概要

国道7号の青森県境にある大館市矢立峠は、山地部を通過する道路で、急カーブ、急勾配区間が連続しており、十分な視距も確保されておりません。特に冬期の滑走による衝突や追突事故等が発生しており、事故防止及び交通の円滑化が求められています。

■事業箇所位置図



進捗状況

平成19年度は、協議の推進、工事着手をします。

冬期交通状況

急カーブが連続する矢立峠

将来のすがた

1.線形不良個所の解消

急カーブの解消により対向車の見通しが早まるなど安心感が向上します。

2.定時走行確保

走行速度の低下を軽減し、定時性の確保が期待されます。

3.堆雪帯の確保

路肩部の拡幅により堆雪帯を確保し冬期旅行速度の低下を軽減します。

一般国道7号 大堤・糠沢歩道（歩・車道拡幅）

環境 情報 コミュニケーション

事業概要

当該区間は通学路に指定されており、道の駅「たかのす」のほか病院等の公共施設も沿道に隣接しています。

平成11年の道路総点検において段差解消等の要望があり、バリアフリー化を目指します。また、冬期においては積雪により安全な歩行空間が確保されていないため解消を図ります。

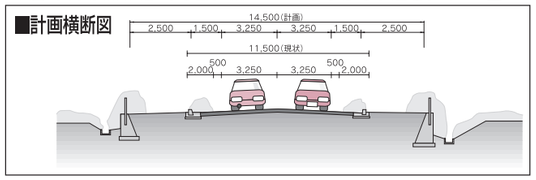
大型トラックが頻繁に通行する道路状況

わずかな歩道を歩く小学生

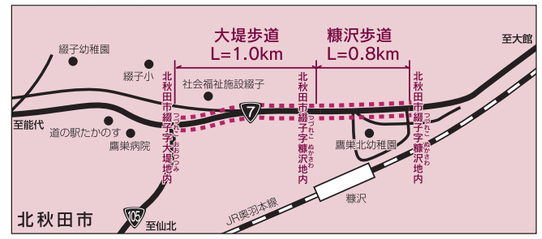
進捗状況

平成19年度は大堤歩道で、工事着手・供用を図ります。糠沢歩道では、用地買収の推進を図ります。

■計画横断図



■事業箇所位置図



将来のすがた

1.歩行者等の安全確保

歩道の段差解消・拡幅により高齢者や身体障害者の交通上の安全が確保されます。

2.冬期車道幅員の確保

車道拡幅により堆雪帯が確保され冬期旅行速度の低下を解消します。